



北数教高校部会だより

北数教高校部会事務局
北海道札幌東高等学校
〒003-0809 札幌市白石区
菊水9条3丁目1
TEL. 011-811-1919

今回は1月末に行われた「数学教育実践研究会」の活動をお知らせします。今回はオンラインで開催し、熊本県立熊本第二高等学校教諭の豊田拓也様のご講演をはじめ、9本のレポート発表と、3本のレポート公開を行い、実りのある研究会となりました。

■「第132回数学教育実践研究会」

(日時) 令和7年1月25日(土)

【講演】生徒たちの多様な資質・能力を育むための
数学における学習評価とは

講師：豊田 拓也 様

観点別評価の理解を深め、具体的な実践イメージを持つきっかけを与えていただいた講演でした。オンラインでの講演でしたが、ただ一方通行的な講義形式の講演ではなく、提供が終了している Google Jamboard やその後継の1つである FigJam と同じ、オンラインホワイトボードの「Miro」を活用したグループワークや、Zoom のチャット機能を利用した質疑応答など、参加者とのやりとりをしながら対面での講演に近い形で行われました。

(右 チャットでの回答

下 Miro を活用したグループワーク)



グループワークでは、各観点の評価の方法などの交流を行い、どのグループからも評価基準の明確化や統一性、主体性の評価方法などの課題が挙げられ課題の共有が図られました。講師の豊田先生からは、観点別評価を考える上での材料として、生徒の自己評価やリフレクション、パフォーマンス評価など、様々な評価方法の他校の事例を紹介いただきました。特に単元ごとの学習活動を言語化し、構造化するワークやテストや考査の解き直しなど、実践的なアイデアの紹介があり、自校の実態であればどのように活かせるかなど考えるヒントが得られました。

道外の事例はなかなか知る機会がなく、あっという間の90分の講演で、その後の懇親会でも、豊田先生に参加者から評価についていろいろと質問がありました。また「Miro」の体験も参加者数が30名ほどで同時に行いましたので、実際の授業で使うとしたらどのような工夫や配慮が必要なのかを考えるきっかけにもなりました。

【レポート発表】

9本の発表がありました。坂井先生のレポートでは前回の研究会の講演をもとに自校の生徒の実態に合わせて教材化した実践を発表されていました。まさに本研究会のコンセプトの1つでもある、「アイデアの相乗り」でした。その他生活に即した事例などこれまでどおり多岐にわたる実践発表がありました。

「ピックの定理とオイラーの多面体定理」

新篠津高等養護学校 坂井健太郎

「楕円内の最大三角形」

数実研会員 安田富久一

「Fail early, Fail often で MoonShot!!! part. 2」

美深高校 小川 尚也

「紙飛行機を用いた探究的な数学的思考力の育成」

札幌龍谷学園高校 鈴木 真生

「ハノイの塔を題材にした数学Bの実践について」

札幌龍谷学園高校 吉本 拓郎

「三角関数を図形的に見てみる」

札幌創成高校 外山 尚生

「三角比で羊蹄山までの距離を測ったらまさかの結果に!？」

倶知安高校 井上 裕稀

「とりとめのない数学の話⑨」

美深高校 大谷 健介

「実力テストで One more thing2」

室蘭栄高校 長尾 良平

～以下紹介のみ～

「見かけ上簡単な四元四次連立方程式を解いてみたが 結構大変」

数実研会員 村田 洋一

「身近な時系列データで考察してみようⅠ～Ⅲ」

「「畑には何を植える…」への序章」

数実研会員 横山 徹

「札幌啓成(普通科・理数科)数学科の「主体性を育む取組」

～星取りシステム・深める一問～

札幌啓成高校 杉本 拓也

今年度の研究会はこれにて終了です。年4回の研究会のうち、2回は対面で2回はオンラインで実施する予定です。次年度も多くの方のご参加をお待ちしております。

■上記のレポートや研究会情報が高校部会ホームページ「数学のいずみ」(<http://izumi-math.jp/>)に掲載されます。是非ご覧ください。

【次回研究会のご案内】

<第133回数実研> (対面での開催です。)

日時： 令和7年6月頃の予定

場所： 札幌市内

講師・演題ともに未定です。